

協働のまちづくりモデル事業 ゆうきネットワーク

「今の障害福祉システムのままでは障害者が自立できるのだろうか・・・
私がいなくなった時、この子は大丈夫なのだろうか・・・」

障害をもつ子の親がセンターに相談に来たのが、ゆうきネットワークの始まりでした。

障害者自立支援法の改正によって今までなかった自己負担が発生、今までの福祉施設のような工場などの下請け(内職的仕事)では、その負担が厳しいものとなりました。この状況の中で、負担を軽減し、生きることが楽しくなることを願い、働く場所、チャンスや環境づくりができるよう、利用者の家族が元請けになって、自主製品の開発・販売をしようという新しい発想が生まれました。その発想を実現

するために、施設や家族以外の人と一緒に企画するチームが「ゆうきネットワーク」です。

「廃棄ろうそくによるろうそく作り」、
「廃油石けん・廃油アート石けん」、
「綿栽培から始める三河木綿・手織」など、
チーム内の発案からいろいろな商品開発を考えてきました。蒲郡港開港 40 周年イベントでのキャンドルナイトのろうそくや、公共施設で使われている廃油せっけんなど、コンスタントな販売はまだしていませんが、ここから発信したものは世の中に出ています。

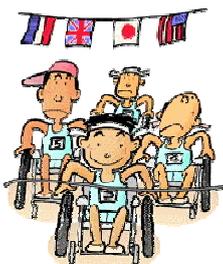


三河木綿、糸紡ぎ



ろうそく作成

これらの商品を開発していく中で、工賃の引き上げだけではなく、これまで作業に関われなかった障害の重度の方も作業する機会が発生することなどの利点も発見しました。しかし、まだまだ課題は山積み。



商品開発能力
コスト意識
生産に合わせた設備投資
販路開発
PRノウハウなどなど…。



素人の集団の試行錯誤は、とても厳しい状況で進行中です。

ただ、最初の想いを胸に、チーム一丸となって、
障害者が楽しく生きることができるよう邁進しています。

真の「自立」と目指して・・・